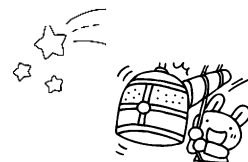


成道会

12月8日(木)

インドのシッドルタ王子(後のお釈迦様)が長い修行の末、お悟りを開かれた日が12月8日です。この日は、成道会の式を行い、「良い子になりますように」とみ仏様に手を合わせます。健やかに、そして、『感謝と思いやり』の心を持ち、『何事にもやる気のある子ども』に育ってくれることを念じています。

第二みみょうこども園の幼児組さんは成道会(じょうどうえ)に参加します。みみょう保育園の子どもたちも大きくなったら参加しましょうね。



令和4年度 12月の園だより



「あそびの中で育ち合う～大切な乳幼児期～」

みみょう保育園では、11月上旬から2週間ほど、職員を中心に新型コロナウイルスが流行し、保護者のみなさまには大変なご心配・ご迷惑をおかけしました。また、部分休園や登園自粛にもご協力いただき、本当にありがとうございました。引き続き、感染対策や健康管理に努めて参ります。これから、年末年始に向けても、まだまだ油断できません。保護者のみなさまも十分お気を付けください。

さて、11月下旬の園庭でかわいい姿に出会いました。みみょう保育園では段ボールが大人気です。いくつか園庭に用意すると、2歳児きりん組のHくんが段ボールを何個もつなぎ始めました。楽しそうな姿を見ていたお友だちも2～3人集まり、同じようにつなげていきます。次々に段ボールを縦列につなげて長い、段ボールの橋が完成しました。子どもたちは嬉しそうに「できた!」と喜び、いよいよ自分たちで作った段ボール橋の上にそっとのってみます。

最初に始めた、Hくんは「のれたよ!」と嬉しそうに教えてくれました。そこから、Hくんの後ろには一緒に作った友だちも並び、一人ずつ順番に段ボールの橋を渡り始めます。不安定な段ボールも全身を使い、両手でバランスをとりながら、ゆっくりゆっくり進んでいきます。最後はジャンプ!!誇らしそうな笑顔いっぱいです。

その、2歳児きりん組さんの姿を見ていた1歳児こじか組さんも近づいてきました。最初はお兄ちゃん・お姉ちゃんが遊ぶ姿を見ただけでしたが、あまりにも楽しそうなので一緒に、遊び始めました。1歳児こじか組さんには「ちょっと危ないかなあ…」と思いながら見守っていると、きりん組さんを真似して、箱の上に登り、バランスをとりながら進もうとしています。きりん組の子どもたちもその後ろに並び、こじか組さんが挑戦しようとする姿を見たり、待ったり、手を繋ぐ優しい姿も見られました。

1つの段ボールからあそびのアイデアが生まれ、“やりたい”あそびの中で試す姿や相手を思い、優しい気持ちで人と関わる姿など、異年齢の関わりを通して、育ち合う、素敵な一場面でした。

0・1・2歳児の子どもたちが豊かに成長していく中で、体験的なあそびはとても重要です。「なんだろう?」「どうしたらいいのかな?」と疑問を感じたり、相手の気持ちや思いに気づいたり、物事の意味を理解しようとするなど、いつも考えながら遊んでいます。そして、豊かな乳幼児期を経て“何かができるより、何かがしたくなる”期待感いっぱいの幼児期へと育っていくのです。

これからもみみょう保育園では“やりたいことを納得するまであそび込む場”を一人ひとりに保証しながら、子どもたちがその気になるような、楽しい保育をして参ります。

12月3日(土)は第二みみょうこども園の生活発表会です。みみょう保育園を卒業した子どもたちも、友だちと一緒にストーリーを考え、アイデア出し、話し合いをしながら、共同的にあそびを深めています。

これからも、子どもたちの将来を見通し、“やりたいことがいっぱい”が実現できるみみょう保育園でありたいと思います。

みみょう保育園主任



みみょうっこプロジェクト! ～わくわく楽しい保育園～

0・1・2歳児の子どもたちが毎日わくわく・どきどきできるような、“みみょうっこプロジェクト”のはじまりです。子どもたちの姿や発達に合わせて変化させたり、大好きな大人に見守られながら、「やってみたい!」と思えるような環境など、園庭や1階のプレールーム、保育室…園全体が更楽しくなるようにしていきます。子どもたちの笑顔やつぶやきもたくさん聞こえてきそうですね。



発達に合ったあそびも取り入れよう!

わくわく
挑戦したいことがいっぱい!!

子どもたちの興味はなんだろう?

子どもがいる社会は

すばらしい



子どもが社会にいるのは、大人にとって、すごくいいことです。子どもの笑顔は大人を幸せにします。子どもと一緒に「うれしい」「良い時間を過ごせた」という満足を味わうと、この子たちがこれから生きる世界をよりよくしたいと思う気持ちが自然と強くなるものです。

日経BP社 中川李枝子著
「ママ、もっと自信をもって」 より



もちつき

12月22日(木)

昔は、どこの家でも年末に餅をつく杵の音がひびきわたっていました。今では、臼、杵、釜、蒸籠といった道具も家庭で少なくなっており、機械でついたり、店で買ってきたりしているようです。

もちは「望」に通じ、物事が満ち足りたことをあらわします。正月に餅を供えて家族みんなが満身に、希望がかなえられるようにと願うのが習わしでした。

※2歳児きりん組さんは、第二みみょうこども園まで歩いていき、お餅つきの様子を見に行きます。「よいしょ よいしょ」と掛け声が聞こえてきそうですね。

消さないで
あなたの心の
注意の火



広島市南消防署
警防課救助係